

七小校長室便り

開校52年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.5 令和6年(2024年)9月18日

2学期が始まりました。今学期も安全と安心を基本に！

8月28日(水)から2学期が始まり、まずまず順調にスタートができました。9月に入って3連休後の3週目となりましたが、まだまだ暑い日が続いていて、安心して外で遊ぶ機会が少ない状況です。学校では、暑さ指数を確認し、熱中症の危険がある場合には、外で遊ぶことを控え、校舎内で過ごすよう、養護教諭が放送を入れてあります。今週も、十分に気を付けて、外で遊べない時には、室内遊び等の工夫をして過ごすようにしていきたいと思えます。

今学期も、子供たちの安全と安心の基に教育活動を行ってまいります。そのためにも、様々な基準やガイドライン等に従って活動してまいります。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

学校生活の満足度を高める構成的グループエンカウンター

8月30日(金)に、国立市教育委員会の施策として取り組んできている学校生活満足度調査(Q-U調査)に関わる構成的グループエンカウターの研修を行いました。この研修は、学級の中における関わりの方や相手への意識、互いを認め合うこと等をゲーム形式や遊び感覚の取組を通して、子供たちに身に付けさせていく手立てを学ぶ研修でした。

ここ数年間は、日本教育カウンセラー協会から講師の方をお招きして取り組んでまいりましたが、今年度からは、各校にいる教育カウンセラーの資格をもつ先生が、講師になって進行していく形を取り入れ、各校での活動の幅や質を高める研修となりました。



今回、講師として中心的に行ったのは、本校に二人いる教育カウンセラーの一人、3年1組担任 鈴木 康之主任教諭でした。もう一人は、1年1組担任 十塚 健吏主幹教諭で、生活指導部の取組に活かしています。

実は、私も、教育カウンセラーの資格を取らせていただいています。学校全体で、七小の子供たちと向き合っていく姿勢を示したいという思いで取りましたので、実際には、お二人の先生方に頑張らせていただいています。

以前もお知らせしましたが、本校の子供たちの学校生活満足度調査の結果としては、右上がりの傾向で、個人差は

もちろんありますが、多くの子供が七小を自分の居場所として捉えてくれています。これからも、教職員全員で、子供たちの安心や安全を高めていけるよう精進していきたいと思えます。

立川消防署より、表彰されました！

9月6日(金)に立川消防署の職員の方が来られて、国立第七小学校に表彰状をいただきました。

七小の教員が緊急時の対応でAEDや心臓マッサージ等の講習を行っていることや高学年の児童が授業の一環として取り組んできた救急救命の授業等について、積極的に取り組んでいることを評価していただきました。

この救急救命を含めた避難訓練等の危機管理については、生活指導部(生活指導主任:十塚 健吏主幹教諭)が中心になって実施してきているもので、年度当初の食物アレルギー対応研修、水泳指導実施前の救急救命研修等で行っています。

七小としては、必要と考えて実施してきたことではありますが、表彰していただいたことをバネに、更に危機管理における取組を充実させていきたいと思えます。

表彰状は、事務室前に掲示してありますので、来校時にでもご覧になってください。



2人の指導教諭の取組と活躍

本校には、指導教諭という職で仕事をしている2人の先生がいます。指導教諭とは、通常の教員業務(担任や巡回指導、通級指導等)をしながら、本校の教員だけでなく、東京都の他地域の教員に対して、研修における講師を担っています。

一人は、理科の指導教諭として、6年1組の担任でもあります。押見 正人 指導教諭です。

もう一人は特別支援教室の指導教諭として、はばたきの巡回指導教員である 土方 真之介 指導教諭です。(写真は、土方指導教諭の講師としての様子です)

指導教諭が2人もいる学校であり、国立市だけでなく、他の地域の多くの先生方のリーダーとしても活躍していただいています。

研修に参加される先生方には、模範授業や公開授業を通して、専門的な知識や技能、各自の課題に対するの助言や指導など、教員として必要な力を高める仕事を行っています。七小の先生方も、困った時には、すぐ近くにいますので、自分たちの課題解決に恵まれた職場環境と言えます。



English Week in Kunitachi seventh elementary school

9月9日の月曜日から13日の金曜日まで、イングリッシュ・ウィークとして、東京都の推進するプログラムを実施しました。フィリピン出身のエンジェルさんには、先週の1週間に渡って七小に来ていただき、私たちの学校生活の中の様々な活動に参加していただきました。

朝の校門での「Hello!」「Good Morning!」の挨拶や授業の中での関わり、給食を一緒に食べながらのコミュニケーション等々、学校生活の中に英語の会話が聞こえてくる、子供たちの気持ちを高めていくような期間となりました。

子供たちは、最初は戸惑いも見られましたが、どんどん慣れて、積極的にコミュニケーションをとる姿や、朝の挨拶の時に自分から「Good Morning!」と話したり、手を振りながら挨拶したりと、少しずつ新しい生活スタイルを取り込んでいました。

1週間という短い時間の中で、日常に英語の学びがあることの大切さや環境づくりの重要性を肌で感じました。日常の中に、様々な環境を創り出していくことで、子供たちの能力が培われ、自然な力として身に付いていくのだと実感したところです。

13日の金曜日には、児童集会でお別れの挨拶をしていただき、子供たちとじゃんけんゲームをして、別れを惜しみました。できることなら、来年度も、来てもらえたらと思う取組となりました。

'See you again! Thank you very much!!'



【校長のつぶやき】

教員として初めて着任したのは、八王子市の学校でした。その学校には、通算7年間お世話になりました。その間に、交通事故による2年とちょっとの期間、お休みをしましたので、実際に勤務をしたのは、5年に届かない状況でしたが、教員となってからのこの7年間は、私自身にとって、教員の基礎を学ぶ大切な期間となりました。

また、教育界においても大きな変化のある期間でもあり、今の学校教育の根底となるものがたくさん実施された時でもありました。

特に大きな変化は、平成4年度から低学年に導入された生活科です。生活科が導入されるまでは、現在、3年生以上で学んでいる理科や社会を低学年でも学んでいました。もっと、学校の学びの場に、日常生活の中にある学びを組み入れて、その当時の子供たちの発達状況に応じた学習にしていこうと様々な工夫をして取り組みました。当時の取組で覚えている者として、秋の季節に、教室の中に落ち葉を敷き詰めて、その中で、落ち葉遊びをさせ、遊びを通して感じることや発見すること、考えたことなどを発言やワークシートに記述するものでした。今の学習には、教科書の学びもありますが、当時は体験的な学びが多くあり、手探りだったことを思い出します。多くの取組を経て、今の教育となっています。

